

市立

2010年度

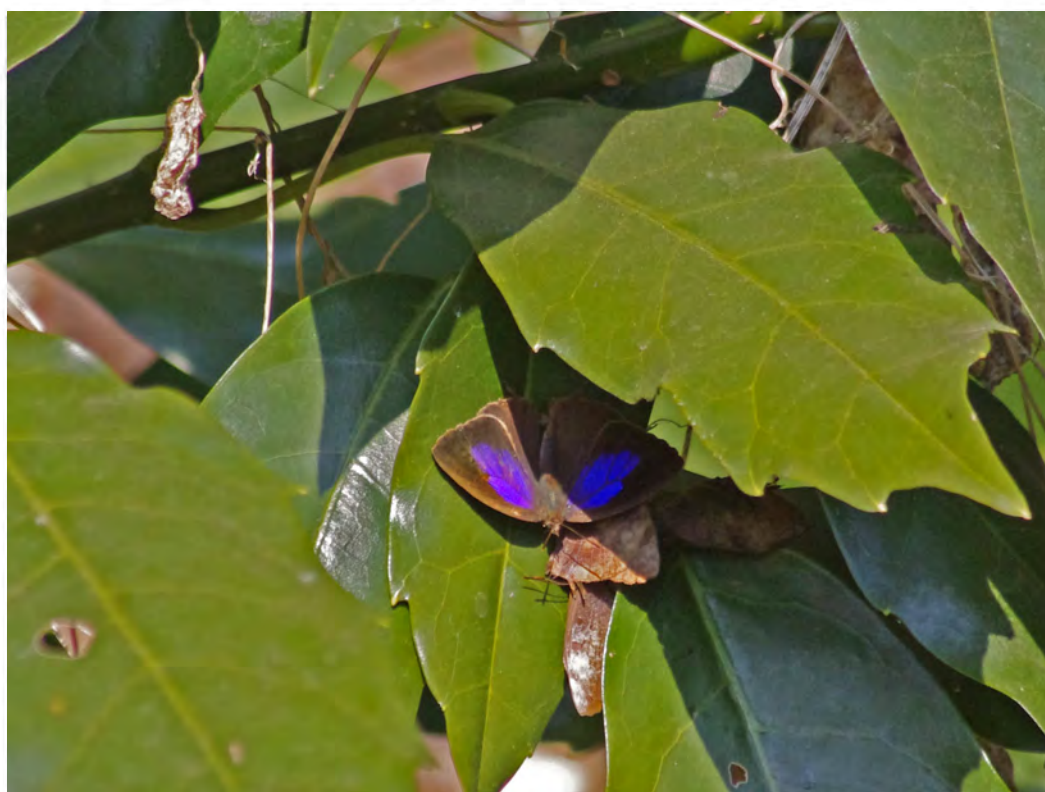
2-3月号

(通巻 132号)

いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの 写真館



ムラサキツバメ
冬のあいだ、アオキの葉の陰でかたまって冬越しをしていました。立春の日、春の陽ざしに1頭が羽を広げました。

撮影：土居幸雄さん

P 1 ● いきもの写真館
ムラサキツバメ

P 2 ● 長田谷津 いきもの暦
3 2月・3月の暦から
2月9日 アカガエルの卵がいっぱい
ほか

P 4 ● 拡大花図鑑
その11 ハンノキ
(そっけない風媒花)

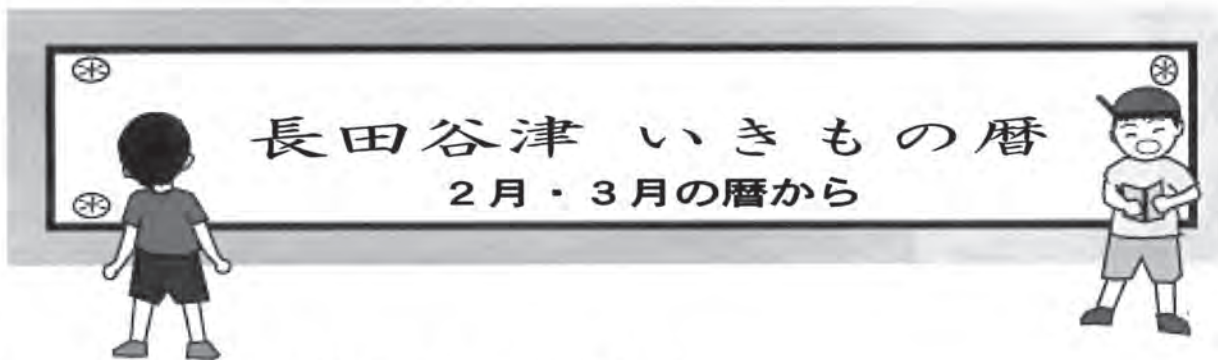
P 5 ● 街かど自然探訪
東国分 広々とした風景

● くすのきのあるバス通りから
うす紫の巨大なダリア

P 6 ● 自然博物館 スポットライト
12・1月の企画展より
ホトケドジョウ ほか

P 7 ● わたしの観察ノート
11月～12月ごろの記録

P 8 ● 行事案内

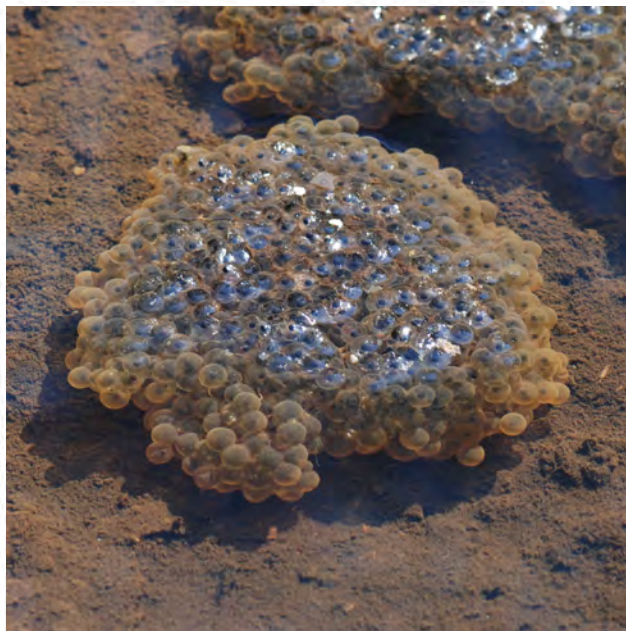


● 2月9日 アカガエルの卵がいっぱい

アカガエル（ニホンアカガエル）の卵塊は、長田谷津に春を告げる目安です。1月中旬以降、ひと雨ごとに産卵が行われ、水辺では丸い卵の塊があちこちで見られます。

カエルの卵としてよくイメージされる「ひものような卵」はヒキガエル（アズマヒキガエル）のもので、こちらは長田谷津では3月に入ってから見られるようになります。そのころアカガエルはおたまじゃくしになっていて、水辺で泳ぐすがたが見られます。

今年は年が明けてから雨が降らず、1月24日の雨ではじめて産卵が行われ、18卵塊が確認されました。



● 2月14日 スギのつぼみがほころんだ

春の訪れは、花粉の訪れでもあります。長田谷津では1月下旬からハンノキが咲いて花粉を飛ばしはじめ、2月後半からスギの開花が始まります。

長田谷津はいまでこそ「自然観察園」という位置づけになっていますが、もともとは山林として林業がおこなわれていた場所です。炭焼きが行われ植林も行われましたが、「将来、材木として利用される」という暗黙の了解がくずれ、スギやサワラは用材としてではなく「みどりの一員」になりました。その結果、切られることがなくなった代わりに、花を咲かせ花粉を飛ばすようになりました。



● 3月4日 越冬したルリタテハが飛んだ

色あざやかなチョウの姿には、だれもが春を実感します。長田谷津では、成虫で冬を越した種類が暖かい日にまっさきに飛び始め、その後、蛹で冬を越したチョウが姿を見せ始めます。

成虫越冬したチョウの代表というと、ルリタテハとキタテハです。春の日中、枯れ草の上で羽を広げてひなたぼっこする姿が目につきます。キチョウも、成虫で冬を越します。また最近ではクロコノマチョウやムラサキツバメといった種類も見られるようになりました。長田谷津では近年になってから急に増加した種類です。



● 3月23日 コブシの花が見ごろ

コブシやモクレン、ハクモクレンは、桜に先立って豪華な花を咲かせる樹木です。モクレン、ハクモクレンは庭や公園に植えられる花木ですが、コブシは市内の雑木林でふつうに見られる野生の樹木です。長田谷津に限らず、身近な緑地でも花が見られるはずです。

長田谷津では、コブシの花がひととき鮮やかにうつります。それは、斜面林に生える常緑樹の緑が背景になって純白の花が引き立つからです。公園に植えられたコブシでは空を背景にするので花があまり目立ちません。そういう場所では、花が大きくクリーム色を帯びたハクモクレンがいいようです。



長田谷津いきもの暦

博物館窓口にて好評発売中

500円

インターネットでは見られません

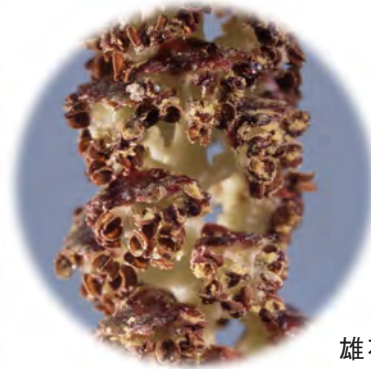
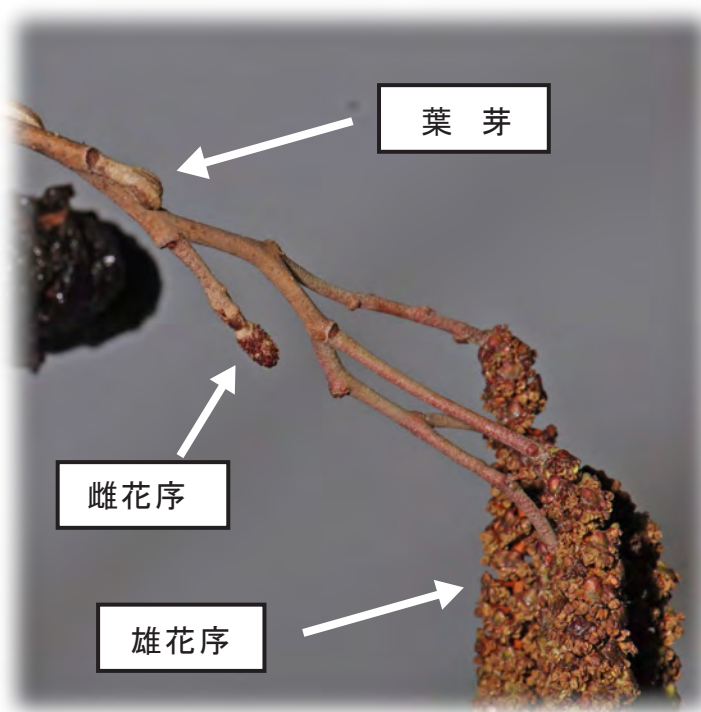
拡大花図鑑

その11 ハンノキ

(そっけない風媒花)

スギ花粉に代表されるように、春は植物の花粉が大量に舞う季節です。実際は夏・秋もさまざまな花粉が飛んでいます。春は樹木に起因する花粉が特に多いのが特徴です。

スギに先立って開花するハンノキも風で花粉を飛ばす「風媒花」です。虫を呼ぶ必要がないので花のデザインはそっけなく、効率的に花粉を飛ばし受け取るという機能重視の形をしています。



雄花序の拡大



雌花序の拡大

枝先に下がる雄花序

ハンノキは、早春（1月中旬から2月）、葉が芽吹くのに先立って花を咲かせます。雄花が集まった雄花序は細長く垂れ下り、花粉が出る時期は黄色く目立ちます。雌花序は小さく、枝を間近で見なければ存在に気づきません。





街かど自然探訪

おじゃまします！

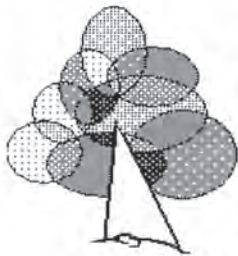
ひがしこくぶん

東国分・広々とした風景

かつて田んぼが広がっていた東国分中学校の周辺には、国分川調節池が造成中です。訪れた時には、草が刈り取られた湿地と浅い水辺がある広々とした風景の中で、いろいろな鳥が見られました。水辺では、コサギが歩き回り、ユリカモメの群れは岸辺で休んでいます。湿地ではのんびりと餌を探すツグミやキジバト、草の陰を出入りするホオジロの仲間が見られ、シギの仲間が急に飛び出して驚かされます。



△東国分中学校の北側から、稲越小学校方面を望む。
画面中央の黒く見えるのは浅い水辺。
この風景の中に、いろいろな鳥たちが隠れている。



くすのきのあるバス通りから No.77

うす紫の巨大なダリア

昨年10月から11月にかけて、旅行先で目を引く花を見つけました。全体の高さは3mぐらいで、きれいなうす紫色の直径15cmぐらいのキク科の花です。その後、市川市内で千葉街道や行徳街道を車で走ったとき、3か所で見かけました。塀より1m以上、2階の窓あたりの高さに花が咲いていました。ぱっとした花が少ないこの時期ですから「見事だなー」と思いました。手持ちの帰化植物図鑑や園芸植物図鑑を調べても出ていませんでした。

「よし写真を撮って誰かに聞こう」と自転車でカメラを持ち、咲いているお宅へ行きました。運よくその家の方が塀の外の花壇の手入れの最中でした。名前も

「コウテイダリア」と判りました。自然博の方に聞くと、「市内では1、2年前から広まっている」との事。こんな巨大なダ



リアがあちこちで増えたら異様な雰囲気になるかもしれません。せめて個人の庭どまりであってほしいものです。

(M. M.)

12・1月の企画展より

ホトケドジョウ

1年間にわたる今回の企画展では、季節に応じた展示替えが大変でした。展示パネルもそうですが、生き物の展示では日々の世話とテーマの更新が期間中、いつもついて回りました。そういったなかで、ホトケドジョウのように飼いやすく、お客さんに人気の生き物は大助かりです。

ホトケドジョウは、長田谷津の湧水に暮らす絶滅危惧種という切り口が館の意図でした。しかし実際には、「初めて見るドジョウのなかま」というような見られ方が多かったようです。



浅い飼育容器に入れて、上からでも横からでも見られるようにしました。隠れる場所がないと落ち着かないので、陶器のつぼと水草を入れました。

クレソン

長田谷津に多いクレソンは、かつてタネがまかれたものが増殖し、自生するようになったものです。12月ごろから新しい苗が育ちはじめ、2月には水路いっぱいに広がります。

展示では、そういうみずみずしいクレソン（食べごろ）を抜いてきて水栽培します。根をよく洗ってから水に挿すと、水が腐らずに長持ちします。やや暗い展示室では「もやし」になってしまうので、2つ用意し、交代で窓際に置いて日光浴させています。



理科で使う水栽培用のプラスチック容器に挿しました。下の方の葉っぱは黄色くなって枯れるので、腐る前に取り除きました。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・長田谷津では珍しく、ツリバナの実が熟してきれいに開き、オレンジ色が鮮やかなタネが顔を出しました(11/6)。
- ・暖かかった日、あちこちで成虫越冬のチョウが飛んでいました(12/4)。ムラサキツバメ、ウラギンシジミ、キタテハ、ルリタテハが飛んでいました。

金子謙一(自然博物館)

◆大柏川より

- ・宿之下橋周辺に今年もコガモが戻ってきていました(11/6)。

K.H. さん

◆柏井より

- ・イヌシデの多い雑木林でこの冬はじめてシメを見ました(11/24)。これから冬を過ぎしに渡ってくる数も次第に増えるでしょう。

須藤治(自然博物館)

◆中山より

- ・大きなツルウメモドキがある斜面林を歩きました(11/2)。黄色い実がたくさんなっていましたはまだ割れていなくて、中の赤いタネは見えませんでした。

金子謙一

◆堀之内より

- ・いざなぎ神社のハリギリがきれいに黄葉していました(11/29)。常緑樹に囲まれているので夏よりも目立ちます。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆じゅん菜池公園より

- ・芝地の岸に上がり、首を背中に回して休んでいるアメリカヒドリの雄1羽を見ました(11/21)。完全な雄の個体を見るのは、久しぶりのことです。

- ・奥の池際のカエデ類の木に、エナガの群れがいました(12/26)。大変な至近距離で観察でき、かわいい顔がよく見えました。

◆坂川旧河口ー帯より

- ・200羽ほどのカワウの群れが坂川旧河口先江戸川の中央部を下流に向かい、潜水を繰り返しながら移動していきました(11/14)。団体となって餌をとっているものと思われませんが、冬期ならではの壮観な光景です。

- ・ベニマシコ雌1羽がオギ原のへりでさえずる姿を見ました(12/18)。姿の見えないもう1羽と、しきりに鳴き交わしていました。

- ・ハヤブサ1羽が柳原水門近くのヤナギの木にとまっていたヒヨドリの群れをねらって、突っ込んでいきました(12/26)。ヒヨドリたちは大変な騒ぎに陥りましたが、狩りは失敗したようです。

◆真間より

- ・真間小学校前の真間川からカワセミの声が聞こえてきました(11/7)。川沿いを東へ飛び去ったようです。
- ・アオサギ1羽が真間小学校付近の真間川にかかる橋の下をくぐり、江戸川方向へ飛び去りました(12/26)。橋の上ではなかったのちょっと驚きました。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

秋らしく周期的に天気に移り変わり、紅葉・黄葉がきれいな秋でした。サクラの葉の色づきが例年になく鮮やかでした。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しめます。

- ・日時 3月5日㊤、4月2日㊤、5月7日㊤、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
真間川散歩	3月20日(日) 午前10時～11時30分	鬼越～菅野
春の野道	4月17日(日) 午前10時～11時30分	ふれあい農園～市営霊園

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。

(雨天中止)

- ・日時 2月27日㊤、3月27日㊤、4月24日㊤、 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 3月6日㊤、4月3日㊤、5月1日㊤、 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

臨時休館のお知らせ

自然博物館は展示室整備のため

2月22日㊤から25日㊤まで

休館いたします。

なお、動植物園、自然観察園は
平常どおり開園いたします。

第22巻 第6号 (通巻第132号)

平成23年2月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047 (339) 0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>